

留学生センター／名古屋大学留学生相談室

松浦 まち子

はじめに

「留学生相談」を業務として以来18年が経ち、留学生の相談内容や世の中の国際化情勢が変化してきたと感じている。以前は、経済的困窮度の高い留学生をいろいろな面で支援することが必要であった。それは、奨学金や社員寮、低廉な家賃の宿舎、バザーのようなリサイクル品等である。しかしながら、このところ留学生は日本社会に必要な人材・労働力としての需要が高まっており、同時に、日本人学生の国際競争力育成のために必要な存在として重要視されている。元来、一定の知的レベルを持った留学生であるから、受動的な支援に甘んじているのではなく、もっと能動的に自分のもてる力を発揮してもらいたいと考え、地域小中学校の国際理解教育への貢献をはじめ、日本人学生との交流推進、ホームステイを通しての地域の人々との相互理解の促進等、留学生相談室としては留学生が積極的に力を発揮できる場面作りに力を注いできた。

その意味で、留学生相談室の使命は二つのキーワー

ド「相談」と「国際」で表される。その二つは切り離すことができない。留学生から相談を受ける中で日本人側の異文化や異質なものへの理解不足、思い込みを感じ、そのため異文化理解促進のための交流活動を行っている。活動のリソースとして留学生自身が必要な存在であることはいうまでもない。日本人学生のグローバル人材育成においても留学生が彼らに与える刺激は大きい。

留学生相談室のキャッチフレーズ「世界の人の心と文化をつなぐ」は、その使命を一番端的に言い表しており、そのことが遥かに見据えているのは世界の人々の相互理解がもたらす「平和な世界」である。

I. 留学生相談業務と相談内容

2007年度も多岐・多様な相談があった。その中から相談内容別に主だったものを記録しておきたい。

平成19年度 留学生に係る相談内容と相談件数

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
指導教員・進路	2	3	2	1	1	2	5	-	1	-	4	6	27
日本語・勉学	1	-	-	2	2	2	5	1	1	-	-	-	14
入国・在留関係	1	1	5	1	1	3	5	1	-	2	4	1	25
宿舎	5	12	3	13	21	11	8	4	6	8	20	16	127
奨学金・授業料	1	1	3	-	3	-	3	2	2	-	2	4	21
医療・健康	2	-	6	2	2	3	3	1	-	-	1	-	20
生活・適応	4	4	11	3	6	6	2	3	4	-	3	7	53
就職・インターンシップ	8	10	16	10	6	8	6	15	9	18	9	13	128
家族	8	5	6	5	3	5	10	9	6	1	2	-	60
地域交流	8	18	16	8	12	11	25	20	5	7	9	4	143
NUFSA・留学生会	7	3	1	3	5	8	5	2	6	8	3	6	57
その他	13	16	15	12	8	12	5	22	12	6	5	9	135
計	60	73	84	60	70	71	82	80	52	50	62	66	810

【指導教員・進路】

- ・博士後期課程3年に進級した学生から、あと1年しかないが、指導教員から論文投稿を許可してもらえない、このままでは学位取得の道筋が見えず、経済的状况を考えても3年間で学位をとりたいが間に合わないのではないかと不安である。自分は論文に集中したいが、先生からは論文とかけ離れたことばかりさせられ時間が無駄に過ぎて行くのであせりを感じる。この窮状を先生にわかってもらいたいが、先生との人間関係を難しく感じる。精神的サポートがほしいのに、研究室仲間も心なしか冷たく感じられる。どうしたらよいか、という相談があった。本人の了解を得て、指導教員に連絡をとることにした。留学生の状況、感じていることを説明して理解してもらい、留学生と話し合うことを提案するためである。電話での連絡は、周りに学生が多くいるかもしれない、研究室環境がわからないので、メールを送るほうが十分な説明ができることもある。しかしながら、このような内容に関するメールは、一方の言い分しか聞いていないため、緊急以外は相談を受けてすぐには出さないようにしている。留学生の強い感情に同調しないよう一晩考えてから書く。そして何度も読み返して、先生が誤解して感情的になったりせず冷静に読んでもらえる文章かどうか吟味してから送信ボタンを押す。瞬時にして送られてきた先生からの返事には、先生自身もお困りの様子が述べられていたが、この留学生と話してみると書かれていてホッとした。返事の中に「ご迷惑をかけて申し訳ありません」との言葉があり、留学生相談室が迷惑がるなどありえないのだが、これが単なる社交辞令なのか、あるいは、私のメールに「私が迷惑がっている」と感じさせる表現があったのだろうかとかコミュニケーションの難しさを感じた。留学生と指導教員、どちらかが悪いわけではないが、物事のとらえ方が根本から異なっていて、それがコミュニケーションの難しさを招いているように感じた。お互いの歩み寄り、相手を理解しようという気持ちが必要であることを痛感した。
- ・国費留学生として名古屋大学に入学したものの、研究意欲を失った学生の今後の進路相談があった。指導教員とともに来室した学生に、大学を辞めるにしても続けるにしても、気分転換に一時帰国することを提案したが、本人は決めかねている様子だった。

原因は、日本語能力不足に起因する研究室内のコミュニケーションの難しさが疎外感を招き、学生のプライド（エリート意識）に挫折感を与え、学習意欲を喪失させたのではないかと分析する。語学学習には地道な努力が必要だが、外向的な性格であればコミュニケーションに関心を示し、多少間違ってもそれを笑いに変えて、さらに学んでいくという好循環を招くが、真面目で完璧を目指すエリートは失敗を恐れて内向的になり、人と話すことに消極的となる。結果として語学が上達せず自己嫌悪、意欲低下という悪循環に陥る。語学力が上達しない自分が救せず、その殻を抜け出せなくなったのではないかと思う。そのような場合は、周りの人々を観察してみることが勧められ、決してみんなが完璧な人間ではないことがわかれば、気持ちが楽になるからである。

- ・指導教員とのコミュニケーションに悩む学生からの相談があった。良い意味でも悪い意味でも指導教員の過保護と受け取れるケースであった。留学生の口調には、大人の学生に対して、門限を決める父親的な圧力をかける指導教員の存在によって、公私に亘って自分の意思で自由にできないもどかしさが感じられた。

【日本語・勉学】

- ・6ヵ月コースといわれる学生の中には、6ヵ月後に他大学へ移る学生もいるが、その学生の日本語能力に関して、移転先大学の担当者から問合せを受けた。日本語でのコミュニケーションに問題ありとのことであったが、こちらでもあまり授業に熱心ではなかったようだ。日本語がある程度できないと、友だちができないなど精神的に影響して元気がなくなったりすることもあるので心配しての連絡であった。
- ・チューターマニュアルを改訂して増刷した。主としてガイダンスで利用しているが、そのために予算を得たことはありがたかった。また、2006年度のアンケートの結果、チューターのニーズに応える形で、チューター同士が体験や意見を交換し話し合える場として「チューターのためのランチミーティング」を前期（7/23）と後期（12/5）に企画・実施した。対象は、留学生センターの6ヵ月コース生、1年コース生、短期交換留学生、留学生担当教員の配置されていない部局（教育、環境、情報科学）の留学生のチューターであり、ECIS相談室、短期留学

室、留学生相談室が持ち回りで担当する形で行ない好評であった。今後も継続して開催予定である。

【入国・在留】

- ・卒業留学生が就職活動で日本に滞在するために設けられた「就職活動のための短期滞在」ビザは、原則として更新できない在留資格「短期滞在」(90日または15日)を1回更新して最長180日間の滞在を可能にするものである。申請に際して必要書類はいろいろあるが、とりわけ総長名の推薦状が必要であり、さらに活動状況に関して定期的な報告が義務付けられている。その意味では指導教員との在学中の関係性が影響すると思われる。2007年度は申請者6名に対して推薦状を発行した。しかしながら、在留資格変更や更新の申請時期が在留期限までほとんど時間がないケースが見受けられることから、就職して「社会で働く」のであれば時間管理の基本ともいえる自分自身の在留期限や手続きに必要な時間等、世の中のルールをもっと意識すべきだといえる。時間の概念は文化によって異なることは百も承知しているが、日本で働く、日本企業で働く場合には、日本の時間の概念、「時間厳守=美德」を理解しておくことが大切であろう。
- ・理系の女子学生が、配偶者が渡日するまで、子どもの世話係りとして叔母に来てもらっていた。しかしながら配偶者の渡日予定が延びたため、叔母の在留期限と配偶者の渡日までに誰もいない期間が生じるようになった。その期間に、学生は海外での学会発表や実験を多く抱えており、子どもの世話と研究の板ばさみ状態であった。そこで通常は更新できない叔母の在留資格「短期滞在」の期間延長をしたいと相談があった。これに関しては、名古屋入国管理局の指導を仰ぎながらも、更新の申請にあたっては、念のため、留学生相談室担当者が事情を詳細に説明した日本語の手紙を持たせた。結果、無事更新できた。
- ・留学生相談室では、留学生担当教員がいない部局に関して、受入れ指導教員から依頼があれば在留資格認定証明書の交付申請を行ってきたが、2008年1月からは、大学でまとめて申請することになった。

【宿舎】

1. 名古屋大学国際交流会館

留学生会館入居中の学生の体調不良や精神不安定に関して、事務職員やチューターから何度か相談を受けた。いずれの場合も、彼らの献身的で親身な対応を心強く感じた。このようなスタッフがいれば、留学生の異国での生活も安心である。しかしながら、一方で、国際交流会館の古さにも由来するが、ゴキブリやナメクジに悲鳴をあげた女子留学生が国の両親に泣いて電話した事実もある。部屋代を値上げして業者を入れ、居住環境の清潔さを維持することは、グローバル水準をめざす名古屋大学の最初の顔である寮として必要なことであろう。このあたりは、常に清掃が行き届き清潔に保たれている社員寮を見習うべきである。

2. 社員寮

10月入居に向けて入居希望者の面接を行った。NGKインターナショナルハウスは、男子1名、女子1名枠に対して、それぞれ13名、14名の応募者があった。トヨタ自動車社員寮は、1名枠に7名応募があった。競争率の激しい社員寮であり、国のバランスなどを考えると選考は難しいものがある。しかしながら、この面接では留学生の授業料免除やアルバイト状況が把握でき、経済的に苦労している留学生が多いことを再認識する。

3. 公営住宅

愛知県住宅供給公社から留学生用に住宅提供の申し出があった。最初の打ち合わせでは、留学生事情をお話し、設定された家賃が高すぎるためお受けできないと説明した。その後、双方で検討を加えながらも年末には大曽根住宅の見学に出かけた。きれいに改修され、冬の暖かな日差しが差し込む部屋は住み心地よさそうであった。一方で、大学から離れているため、周りが日本人ばかりで家庭に残る家族にとっては心細いのではないかとも思えた。3DKの部屋の中で公社と大学の担当者間で、家賃や敷金等について話し合った。その後、2008年夏に特定入居に関して覚書が締結され、入居者を募集、応募した二組の家族は2008年9月中旬からの入居が可能となった。家賃が減額されて留学生が入居しやすい条件となったことは、家族で暮らす留学生が多い名古屋大学にとってありがたかった。

4. 民間アパート等

- ・アパート家賃の自動振込制度申請と実際の引き落としに1～2ヵ月かかることがあるため、留学生は自動的に引き落とされていると考えていたが、結果的に1か月分足りないことで再請求するトラブルがあった。また、自動振込みをしていない学生が、前月末までの家賃納付を遅れて当該月初めや当該月半ばに納付したため、やはり1か月分が未納になったケースもあった。これについては、本人にメールで知らせ、無事徴収できた。いずれの場合も、管理会社が毎月入金をチェックをしておらず、約1年経ってからの請求だったため、領収書の有無などが絡んで難しいところがあった。その他、水漏れ事故が起き、住宅総合補償の加入によって保険が適用されたケースもあった。
- ・在留資格「日本人の配偶者」で在籍する学生から、宿舍賃貸にあたり機関保証を利用できるかと問合せがあったが、機関保証は留學生住宅総合補償の加入を条件としており、加入資格が在留資格「留学」であることを理由に不可と回答した。
- ・留学生から良いアパートを見つけたが、家主が留学生には貸さないと、奨学金ももらっていて経済的問題もないのだが、と相談があった。家主に電話して事情を聞くと、現在3名の留學生が入居中である。1名は大変立派な人であるが、あとの2名は生活について注意しても聞かないのでほとんど手を焼いているため、これ以上外国人を増やしたくない、と本音の返事がありあきらめるしかなかった。一人の留學生の行為が、「留學生」という枠で捉えられ、他の留學生に迷惑をかける迷惑な例であった。
- ・名古屋大学の留學生のために建設された「メヘルバン本州」に、元留學生が論文提出のために来日した3ヵ月間入居させてもらった。身分は留學生ではないため、大学の機関保証制度の対象ではなく、所属部局の教員が個人的に保証人になった。セントレア到着後すぐ入居できるようメールや国際郵便で契約手続きを行ったり、地域のボランティアの協力で最小限の家財道具や布団を運び込んでおいたので大変感謝された。

【奨学金・授業料】

2006年度、貯金をはたいて入学金を支払った学生が、授業料は半額免除となったものの、名古屋大学留

学生後援会からの5万円の貸付金では足りず、残り8万円を日本国際教育支援協会の短期貸付制度に申請した。返済は毎月8,000円ずつの10ヵ月払いであったが、留學生相談室担当者がその連帯保証人になったことから、毎月支払った後、振込み明細書を見せに来室した。今考えると、それは保証人への責任感であり、自らへの意志確認だったのだろうと思う。そのゆるぎない強い精神と信頼感を受け止めた企業があり、彼は請われて入社するという幸運を得た。

【医療・健康】

十数日入院した学生から、30万円を越える請求があったが支払えない、という相談があったが、留學生は基本的に国民健康保険に加入しているので、区役所で高額療養費申請をするように指導した。本人はその制度を知らなかったようで、ほっとした表情になった。

【生活・適応】

(1) アルバイトに関しては、給料未払いに関して数件の相談があった。アルバイトを無断で休み、クビになった学生から、雇用主が怒って「給料は払わない！」と言ったがそのお金をもらわないと生活が…と相談があった。担当者が雇用主に電話してみると、きちんととってあるからいつでも取りに来るよにとのこと案ずるより…であった。日本人であれば謝ってでも給料をもらいに行くと思うが、この学生は日本語が理解できるだけに「払わない」という言葉を真に受けて悩んでいたものである。言葉の背後にある文化理解の難しさを感じた。

(2) 就職に関しては、ここ2～3年、留學生を雇用対象とした就職セミナーや企業説明会など、人材紹介会社や行政などの主催が増えてきている。アジア人財資金構想もその観点から企画された事業である。そのような情勢の中、名古屋大学においても「留學生の就職」を無視できなくなっており、就職支援室と連携しながら、留學生相談室が大学の窓口となっている。19年度も多くの企業の来訪を受け、会社説明会を開催する等、留學生と企業がお互いに「知り合える場」を提供した（次頁「平成19年度留學生向け求人・会社説明会実施状況」参照）。参加留學生の中には、まだ卒業年度に達していなくても関心がある

学生も多くみられた。会社説明会に参加し、採用に至った学生もおり、それら学生の社会での活躍が企

業の留学生理解向上や後輩留学生への更なる求人につながることを期待している。

平成19年度 留学生向け求人・会社説明会実施状況

No.	企業名 説明会実施★	来訪・電話 説明会実施日等	対象	参加者数	備考
1	A社	4/20 来訪			アジア人財資金構想申請
2	B社	5/7 来訪			アジア人財資金構想申請
3	C社	5/9 来訪 (ECIS)	ブラジル, ロシア, インド, ベトナム, (中国)		グローバル採用の説明 海外事業強化
4	D社	5/16 来訪			
5	E社 ★	5/18 会社説明会 (3/8 来訪)	中国, タイ, 台湾, 韓国	11名	中国 (6), 韓国 (1), 台湾 (3), 香港 (1)
6	F社 ★	5/18 電話 6/22 会社説明会	中国	14名	名大 (12), 岐大 (1), 名学院 (1)
7	G社	5/28 電話	インド人	3名 応募者	名大 (1), 名大留学生の配偶者 (1), 会計士 (1)
8	H社	6/13 電話&メール	外国人留学生		掲示のみ
9	I社 ★	6/13 メール 7/20 会社説明会	外国人留学生 (職務経験者)	26名	中国 (20), タイ (3), ウズベキスタン (1), バングラデシュ (1), モンゴル (1)
10	J社 ★	7/27 会社説明会	タイ	4名	
11	K社 ★	7/12 電話&メール 7/30 会社説明会	中国, タイ, インド	26名	中国 (25), タイ (1)
12	L社 ★	7/18 来訪 7/31 会社説明会		24名	中国 (19), モンゴル (2), 台湾 (1), カンボジア (1)
13	M社	8/28 電話	ベトナム人		
14	N社	9/28 来訪	ベトナム, 中国		
15	O社 ★	10/4 来訪 11/8 会社説明会	ベトナム	5名	
16	P社	10/17 来訪	ベトナム求人		
17	Q社 ★	11/5 来訪 11/21 会社説明会		1名	
18	R社 ★	10/30 来訪 1/15 会社説明会	留学生	10名 (5カ国)	ベンチャー企業
会社説明会実施企業 9社				参加者合計 121名	

・また、留学生相談室主催で4回シリーズの「留学生のための就職ガイダンス」を開催した。留学生が日本で就職活動やキャリア開発を行う際に必要とされる知識・スキルの習得を中心とした教育プログラムである。このガイダンスの参考にするため、留学生の就職支援において先進的な取り組みを行なっている東北大学へ末松和子先生を訪ね、学生の活用を含め支援のあり方など伺うことができたことは大変有意義であった。また、このガイダンス企画にあつ

ては、日本学生支援機構東海支部が開催した「外国人留学生のための就職支援ガイダンス」(2007年11月)も参考にさせていただいた。

先輩留学生からは、学生時代の人脈構築の大切さ、自分が外国人だという先入観を持たないこと、日本ではチームワークが大切等の有意義な経験談が語られた。全体を通じて役立つ情報が多いと好評であった。来年度は、さらに充実した内容で開催予定である。

平成19年度「留学生のための就職ガイダンス」

	日程	テーマ・講師等	内容
I	1/18 (金)	留学生就職支援ガイダンス (基礎編) 講師：後藤文吾氏 (名古屋外国人ジョブセンター)	日本での就職活動の基礎知識
II	1/25 (金)	就職活動のための日本語フレーズ講座 講師：服部明子氏 (名古屋大学大学院生)	基本の敬語と仕事のことば
III	2/21 (木)	留学生就職支援ガイダンス (実践編) 講師：船津静代先生 (学生相談総合センター) 協力：名古屋大学就活サポーター	面接練習, エントリーシートの書き方
IV	2/23 (土)	本音で語ろう日本での就職! コーディネーター：張敬清氏, パネラー：元留学生3名	先輩留学生との座談会

(3) 時代を反映して、留学生の生活にも携帯電話が欠かせなくなっているが、送りつけられるインチキメールに氏名や住所を教えてしまった学生が不安になり相談するケースがあった。日本語ができることが災いして、自分で対応しようとして悪い結果を招く。留学生に限らないが、知らない人からのメールや電話には答えないように注意を与えた。

【家族】

・留学生相談室が実質的に運営している NUFSA 主催「留学生の家族のための日本語・日本事情コース」(以下、「家族の日本語」)の2007年度の受講生数は、前期38名、後期37名、合計75名であった。2007年度は、学外からの受講希望者の受講許可の是非に関して日本語教師とミーティングを数回開催した。2006年度に受入ガイドラインを策定したが、学外者とはいえ日本語学習の機会がなかったり、母語で話せる友人がいなかったり等の理由により、このコースを知って申し込んでくる外国人を受け入れてあげたいという心情が受入ガイドラインによって否定されていたからである。一方で、ひとクラスの人数が少なく、

学習面での広がりには欠ける状況も起こっていた。年度末に、受講生最適目標数を50名と想定し、受入れガイドラインを緩和することで決着をみた。

- ・11月には、長い間途絶えていたバス旅行を地域の篤志家のご寄付により復活することができた。一緒に勉強している仲間と犬山リトルワールドへ行き楽しい一日を過ごした。
- ・名古屋栄ライオンズクラブの提案で、このコースに関わる日本語教師やボランティア団体の合同懇談会を夏に開催したことは、新しい試みであった。これを契機に、2008年度からは、これまで日本語教師と開催していたコース運営ミーティングにボランティア団体(ひろば、ALOE)にも参加してもらうことにした。意見交換しながらより充実したコースにしたい。
- ・長い間、夫によるDVに悩んでいた学生が離婚への意志を固めた。実家の状況や経済状況、子どものことなど、心を決めかねる要素が多くあり悩み続けてしばしば相談に来ていたが、どのような方向であれ人が言ったことに従うのではなく自分で決めることが大切と諭した。



11月6日 秋の野外民族博物館リトルワールド

【地域・交流】

(1) 地球家族プログラムは、「留学生相談室」が担当して、地域の日本人の家庭に留学生を招くホームステイを実施している。2007年度も多くの留学生が参加し日本の家庭を体験した。担当者(鈴木香津代)からの報告を記載する。

◆ 今年度はホームステイを8回開催し、参加留学生は30カ国、延べ149組154名だった。何回も参加を申し込む学生も多く、ホームステイ初日の対面の場で、前回のホストファミリーやその友人家族との思いがけない再会を喜ぶ光景も見られた。短期研修で来日した

際、ホームステイを体験し、名古屋大学の学生として再度来日後、かつてのホストファミリーとの交流を復活させたというケースもあり、留学生と地域とのネットワークができつつあるようである。

ホームステイオリエンテーションも3回開催し、合計84名の学生が参加した。3回目のオリエンテーションでは、ホストファミリーにも参加してもらい、お互いの体験を共有した。

地域登録者のみなさんに、地球家族プログラムの様子を知ってもらおうと2006年10月から始めた『地球家族プログラムだより』は、今年度6回発行し、第8号を数えた。

また、地球家族プログラムの活動を愛媛大学と南山大学で紹介する機会に恵まれ、大学の枠を超えて「国際交流とは」「ホームステイの教育的効果」「ホームステイで生まれた絆をどう育てるか」などについて考えるきっかけとなった。

(2) トヨタ自動車(株)主催「トヨタ見学会」は2007年度は2回(8月, 2月)実施した。この見学会には長い歴史があり、以前は、トヨタ自動車が大学まで送迎バスを出し、参加申込みに留学生の行列ができる状況だったが、愛知万博開催の2005年以来、トヨタ自動車が多忙を極めたことから、2006年度から学生が豊田市駅まで地下鉄で行き、そこからの送迎をトヨタ自動車が行うことになったためか、毎回の参加人数が10名前後に減ってしまった。留学生の交通費負担や地理的不案内など原因はいくつか考えられるが、トヨタ自動車としては、最低15名は確保したいという思惑があり、大学でバスを出して留学生の工場見学を支援してもらえないかとの要望があった。学内関係者と検討した結果、そのための予算確保は難しいとの結論に達し、やむなくトヨタ見学会は一時中断することになった。

(3) 名古屋栄ライオンズクラブからは、2007年度も「家族の日本語コース」へ多大なご支援をいただいた。中でも経済的支援は大きく、講師謝金1クラス分、每期全受講生への新しいテキスト贈呈、さらに持ち寄りパーティーでの受講生へのプレゼント(近年は図書券)などを換算すると、2007年度は約55万円という金額になる。1994年秋以来その恩恵にあずかった延べ受講生数は1,340名(2007年度末まで)で

あることから、すでに1,000万円近い経済的支援をいただいたことになる。その他、名古屋大学中央図書館への図書寄贈の経済的支援についてもすでに約300万円である。あらためてこれらの継続的なご支援に感謝申しあげたい。

また、4月と10月の開講式や7月と12月の持ち寄りパーティーには会長はじめメンバーの方々にお忙しい中を出席していただき、日本語コースの状況を見ていただいた。さらに、2月のライオンズクラブ例会では、受講生を代表してデヴィ・アフリアナさん(インドネシア)と金英珠さん(中国)の2名が出席し、日本語でスピーチして日頃の学習成果を披露し好評であった。

一方、この家族の日本語コースへの支援のご縁で、名古屋栄ライオンズクラブでは結成15周年記念事業として、留学生の日本語スピーチコンテスト開催の提案があり、名古屋大学留学生センター主催、ライオンズクラブ共催で2009年1月10日(土)実施に向けて、留学生センター教員、ACE学生、ライオンズクラブメンバーで毎月打合せを行ない準備を進めている。

(4) 小中学校の「総合的な学習の時間」の導入による国際理解教育への留学生派遣業務については、「留学生相談室」が担当している。派遣依頼があれば、掲示等で留学生に周知して参加者を募った。留学生のお国紹介や母国での子どもの遊び紹介が多いが、留学生生活に現地の子どもの交流機会は少ないため、留学生にとっては良い思い出を作る機会とも言える。

(5) 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の継続事業である留学生地域交流事業「地球家族セミナー in a training camp 2007」に、昨年同様、留学生相談室の高木先生とともに企画段階から関わった。日本人学生と留学生を対象にした合宿セミナーである。今回のセミナーでは3つの新しいトピックを導入した。「日本の男と女」「インターネットと国際交流」「幸せとは?」であり、それぞれ時代の流れを感じさせながらも普遍的なものに気づかせる効果があった。自然環境に恵まれた美浜の海辺で潮風に吹かれながらの学生同士の対話は、おのずから心を開かせるものであり、セミナーの二つの目的である「一緒に考えよう!身近なこと,世界のこと!」と「世界

の人とともにだちになろう」は深まる相互理解の中で達成されたといえる。

- (6) 愛知留学生会後援会では、2007年度も愛知留学生会の交流活動を支援し、AFSA、ACE等との合同会議を重ねて多くの行事を開催した。2007年度の新しい試みとして、リトルワールドへの春のバス旅行、及び秋旅行はこれまで留学生およびその家族向け行事だったが、学生のグローバル人材育成を念頭においた学生の国際交流活動と位置づけ、国際交流に関心のある日本人学生の参加を可能にした。日頃留学生との交流機会の少ないより多くの学生に留学生との交流の機会を与えたいという教育的観点を加味した。春は127名が野外民族博物館リトルワールドでバーベキューのデイキャンプ、秋は妻籠・馬籠散策を兼ねて112名が蕎麦打ち体験という共同作業を取り入れて交流しやすい場面を設定した。いずれも好評であった。また、秋旅行の参加受付からインターネット申込みを行ない県内留学生の便宜を図った。

さらに、例年通り、愛知県内の大学で学ぶ留学生を対象に緊急援助金事業を行ない、5大学14名（名古屋大8名）に計162万円の緊急援助金を支給した。この中には、交通事故で意識不明の重体に陥った本学の留学生が含まれている。この学生については部局の留学生担当教員による代理申請を許可した。緊急援助金の資金は「名古屋を明るくする会」からのご寄付であり、留学生からのお礼状は本人が特定できないよう配慮して「明るくする会」の会報誌「なま」に掲載し、会員の方に寄付金を実質的に役立っていることを報告している。

また、年度末恒例のAFSA役員歓送迎会は昨年度好評だった先輩AFSA役員経営のアジアンレストラン「MANDALEY」で今回も開催した。

- (7) 地域の人々から特定の国出身の留学生を紹介してほしいという依頼が時々ある。例えばブルガリアの薔薇栽培に関心のある市民、あるいは南米ペルーの蝶収集している市民、などである。大抵は現地とのやり取りに関する言語面での手伝いであり、アルバイトにもなる。英語圏の学生にビデオの英語ナレーションを依頼した企業もある。留学生は母国に関わって日本人に必要とされるのを歓迎しているように見受けられる。

【NUFSA・留学生会】

- (1) 名古屋大学留学生会（NUFSA）の2007年度の会長は、国際開発研究科のナディアさん（モロッコ）だった。バザーや名大祭、各種パーティーなどの事業を行なったが、春のバザー時に地域のボランティアの方々にお礼の品を贈呈した細やかな心遣いが印象的だった。しかしながら、秋のバザーでは、NUFSA担当者が初めてで勝手がわからず協力的でなかったため、支援しているACEや地域ボランティア団体から非難の声があがった。バザーの時には、いつも売れ残った粗大ゴミの始末が問題になるが、NUFSAが費用負担することを条件に、レジデンス事務室に廃棄業者への手配を依頼して協力を仰いでいる。

また、2008年度に向けてNUFSA主催「家族の日本語コース」では、ここ数年受講料だけでは運営できないため事情を説明してNUFSAから10万円補助してもらった。今後に向けては名古屋大学留学生会後援会からの補助金を10万円に増額することが承認されたが、広報活動の更なる拡大を図って受講生を募り運営を安定させたいと考えている。

また、2007年度のFeedForth07ではNUFSAが資金面で協力でき、より大規模に留学生らしい活動ができたことを喜ばしく思っている。

- (2) 愛知留学生会（AFSA）の2007年度の会長は、名古屋大学のベツワル・デウエンドルさん（ネパール）だった。彼は、さまざまな行事やその準備等に責任をもって対応した。愛知留学生会後援会、ACE等との合同会議、リトルワールドへの新入留学生歓迎会（5月）、秋のバス旅行（11月）、「第43回留学生の夕べ」（12月）、AFSA役員歓送迎会（年度末）等の恒例行事を行なった。「留学生の夕べ」は、約440名（主催者を含む）が参加して楽しいひと時を過ごした。一般市民で楽しみにして下さっている方も多いが、40数年前と異なり、市民レベルの国際交流の機会や海外旅行で本場の料理やパフォーマンスに触れる機会が増えていることから、留学生の手作りの料理やパフォーマンスの価値が問われ始めており、「留学生の夕べ」のあり方や継続が検討課題である。

- (3) 名古屋地域中国人留学生学友会の2007年度会長は、劉学波さん（生命農学研究科 博士後期課程）だった。秋のスポーツ大会で体育館の使用状況が悪

く、保体センターから注意を受け、しばらくは使用停止処分となった。役員は、使用に際して十分規則を守っていたが、大勢の参加者にそれが十分伝わらず土足で入ったため、月曜日の体育の授業担当教員から転倒等危険性に関して注意があったものである。他には、中国人留学生が自転車で交通事故に遭い、意識不明の重体に陥ったが、会長等中国人留学生は、家族の病院通いや通訳等で毎日のように病院へ付き添った。お陰で、3ヵ月半後には痛々しい傷跡はあるものの退院し通学できるまでに快復したことは幸いであった。

おわりに

2007年度は、全学流用運用定員削減から派生した相談体制一元化検討会(後の相談業務体制検討WG)に振り回された感がある。ヒアリングや資料作成に時間を費やし、設定された場面で説明したり、要望を述べたりしてきたが、結果的には運用定員削減のための筋書き通りに事が進められたように感じた。今後、関連組織の統廃合に向かうと思うが、大切なことは、留学生が日本へ来て研究においても生活においても有意義な時を過ごせるようサポートすることであり、日本人と心に残る交流ができるよう配慮することである。留学生相談室は体制の変容にいかようにも適応しながら、多方面のネットワークを駆使しながら多文化間における潤滑油としてその使命を果たしていきたいと考えている。

名古屋大学留学生相談室リーフレット(日本語版)

●留学生相談室案内●

名古屋大学東山キャンパス
留学生相談室(旧電子情報館)

インターナショナル・リサーチセンター
留学生センター(旧国際センター)

中央図書館

世界の人々の心と文化をつなぐ

みんなの留学生相談室

名古屋大学 留学生相談室
International Student Advising Office (USA Office)

名古屋大学 留学生相談室は、留学生生活や国際交流活動をサポートします!

留学生相談室 (USA Office)
<http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp>

留学生センター (ECIS)
<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp>

2008.03

◆相談担当者と相談時間のご案内◆

お名前 松浦まち子
留学生相談室長、教授
電話: 052-788-2193
E-mail: matsura@ecis.nagoya-u.ac.jp

お名前 高木ひとみ
留学生アドバイザー・カウンセラー、講師
電話: 052-788-6118
E-mail: takaki@ecis.nagoya-u.ac.jp

◆相談時間◆

●松浦まち子
場所: 18電子情報館西棟7階742号室
相談時間 月 火 水 木 金
10:00~ 前期○ ○ ○ ○ ○
12:00 後期× × × × ×
13:00~ ○ ○ ○ ○ ○
16:00

●高木ひとみ
場所: 18電子情報館西棟7階740号室
相談時間 月 火 水 木 金
10:30~ 前期○ ○ ○ ○ ○
12:00 後期× × × × ×
13:00~ ○ ○ 13:00- 14:00 ---
16:00

◆事務局◆
●スタッフ: 白石慶子、鈴木香津代
場所: 18電子情報館西棟7階739号室
相談時間 月~金 10:00~12:00/13:00~16:00
電話: 052-788-6117
FAX: 052-788-6120
E-mail: isa@ecis.nagoya-u.ac.jp
●時間外の相談については電話またはE-mailで問い合わせてください。

◆留学生相談室とは◆

留学生相談室は名古屋大学における留学生に関するあらゆる相談の窓口です。

全学の留学生を対象に、進学や生活に関する情報を提供するだけでなく相談を受け付けています。異文化適応に関する悩み、苦しみ、わからないこと、あるいは嬉しいことがある時、いつでも気軽に来室してください。充実した留学生生活を応援します!

また留学生と関わる教職員や幅広い学生からの相談や国際交流に関心のある学生からの相談なども受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

相談内容については相談者のプライバシーを守ります。

◆教育・交流プログラム◆

留学生相談室では、留学生と日本人学生や地域社会との交流を目的とした次のようなプログラムを提供しています。これらのプログラムに興味のある方は、ぜひ留学生相談室のホームページや留学生センターの掲示版をご覧ください。

URL: <http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp>

- 多文化間ディスカッショングループ
留学生と日本人学生が定期的に異文化体験や留学生生活についてグループで語り合い交流するプログラム。
- スキームワールド・コーヒアール
コーヒーを飲みながらリラックスした雰囲気の中で留学生と日本人学生が話し合い、異文化間での文化交流のプログラム。
- 地球観望プログラム
遠くや未来の国に行こうという留学生のホームステイプログラム。
- 国際理解教育ボランティア
地域の教育機関で留学生が自分の国や文化について紹介するプログラム。
- 留学生の家族のための日本語・日本語コース
留学生の家族のための日本語教育プログラム。
- 留学生のための就職支援プログラム
留学生が就職活動を行う上で必要な情報・スキルを身に付けるプログラム。

みなさまのご参加をお待ちしています!

留学生センターでも、様々な国際教育交流プログラムが展開されています! 詳しくは、留学生センター・掲示版やホームページをご覧ください。

ECIS URL: <http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp>

相談内容

●留学生側
・勉強、研究
・入国、在留手続き
・生活(食事、お風呂、アルバイト) ... 時間や場所
・異文化適応・理解
・人間関係
・心身や精神面
・健康

●日本人学生など
・チューター活動
・留学
・地域交流、国際交流
・就職や進学
・その他